

入学後の教育改革を どう進めるか

追手門学院大学

原田章

(akharada@otemon.ac.jp)

本学で抱える教育的な課題

- 「自ら行動し,自ら考え学ぶ」学生の養成
 - 学生主体の学びへの転換

学生	教員	制度・組織
動機付けを利用した 学修意欲の向上	力の育成から考える 「授業」スタイルの模索	学生の成長の可視化 教員の授業支援体制

アサーティブ入試の取組による成果にヒントが数多く含まれている

アサーティブ入試研究からの知見

- 「学びの目的と意識(特に, キャリア意識)を明確に持つことの重要性」
- しかし, 本学の教育課程は
「目的や意識を持ってもらう仕組み」や
「学びの意欲に応えるカリキュラム体系」に問題
- 一応, 学内に次のような問題提起を教員に発信済み

追大新教育++ 「主体的に学ぶ学生の育成」

大学
入学

学修の動機付け
何のために学ぶのか

学生が自分の学修を自分で考える
ようになることを期待

どんな教育方法が適切か
アクティブラーニング型授業の導入
講義型授業の改善、ゼミ教育
学びあい・教えあい

基礎学力問題
読解力
基礎計算力
文章表現力

学修進度の自己把握
自分に必要な学修を自己判断できる

どんなツール・設備が必要か
追大 e-Navi、BYODやWebClass
検定テスト
学修スペースの確保

学修習慣問題

深い学びへ
断片的知識の体系化(?)

専門教育に必要な知識・技能の養成
1, 2年次からの展開も重要
知識の定着
深い学びの促進

どのような力を修得？
例) 比較力
例) 発信力
例) 検証力

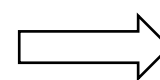
結果としてキャンパスで学ぶ
学生が増えていくことを期待

どんな教育が必要か？
どんな方法が適切か？
学生はどう学ぶのか？

どのような知識を修得？
例) 組織の仕組み
例) 記述統計量
例) J-POPの特徴



主体的学習者



卒業後
独立自彊・社会有為な人材

社会のどのような場面で活躍できるかを
想定できていることを期待

学部の人材養成目的に合致
した教育になることが必要

今後の取組 スタートアップ教育の展開

- スタートアップ教育の内容
 - 入学前教育+入学時オリエンテーション+初年次教育
 - 到達目標(新入生)
「1年生秋学期にキャリア意識を持って学び(履修)を検討できる」
 - 在学生在を新入生のよいロールモデルに
 - 在学生の成長も促進

現状の取組例:

入学前に年内入試合格者を対象とする
研修型イベントを実施. 研修内容は仲間作
りや学修計画作り

今後の取組 入学前教育の見直し

- 合格決定時期の違いによる教育内容の検討

第1志望の傾向が高い
合格者群

アサーティブ入試や指定校
推薦入試の合格者など

基礎学力向上の必要性や学習習慣の
重要性を意識させる内容

第2志望以下の傾向が高い
合格者群

一般入試やセンター試験利
用入試の合格者など

学びの必要性や学修意欲, 大学への帰
属意識を高める内容

展開上の課題

- アサーティブ入試成果の学内への技術移転
 - 量的研究成果の共有を進める
- サポート学生組織の充実化
 - よいロールモデルとなる先輩学生を組織化
- 教員間協働の取組
 - 本学の場合, 教職協働は進んでいると思われる
 - 「1科目1担当教員」から「1科目複数担当教員」へ
 - 初年次科目や専門基礎科目での採用を進行中